

事業コード	H23-農-新-06		区 分	国庫補助	県単独
事業名	農業農村整備調査計画費		部局課室名	農林水産部 農山村振興課	
事業種別	農地集積加速化基盤整備事業		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855	
路線名等	大仙市		担当課長名	保坂龍弥	
箇所名	藪台地区		担当者名	小野寺平崇	
総合計画との関連	政策コード	02	政 策 名	融合と成長の新農林水産ビジネス創出	
	施策コード	02	施 策 名	新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくり	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	水田フル活用の推進と生産基盤の整備	

1. 事業の概要

事業期間	H24 ~ H29 (6年)		総事業費	34.5億円	国庫補助率	55.0%	
事業規模	区画整理 A=213.3ha						
事業の立案に至る背景	<p>区画が小さく道路も狭小であるため農作業に多大な労力を費やしている。また、用排水路が土水路でかつ兼用水路となっているため地下水位が高く、大豆等の転作作物の導入が困難であることから複合経営への大きな支障となっている。</p> <p>地区に隣接する雄物川の河川改修が進められており、ほ場整備による排水対策との相乗効果により洪水常襲地帯からの解消が可能となる。</p>						
事業目的	<p>大区画ほ場(1ha区画)を配し、用排水路の分離・装工、暗渠排水による農地の汎用化を図ることにより複合経営の可能な基盤を整備する。</p> <p>農地の集積・連担化を促進し、大型機械化体系による農作業の効率化を図る。また、転作作物として大豆・枝豆等の作付け誘導を図り、法人化による経費の節減、維持管理費の低減をし、低コスト農業の実現と土地利用型農業の確立を目指す。</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度以降
	事業費		3,447,000	100,000	700,000	850,000	1,797,000
	経費 内訳	工事費	2,994,000		600,000	780,000	1,614,000
		用補費	52,000		20,000	20,000	12,000
		その他	401,000	100,000	80,000	50,000	171,000
	財源 内訳	国庫補助	1,895,850	55,000	385,000	467,500	988,350
		県 債	689,400	20,000	140,000	170,000	359,400
その他		603,225	17,500	122,500	148,750	314,475	
	一般財源	258,525	7,500	52,500	63,750	134,775	
事業内容	区画整理 A=213.3ha 暗渠排水 A=213.3ha	実施設計 N=1式	区画整理 A=70.0ha	区画整理 A=85.0ha	区画整理 A=58.3ha 暗渠排水 A=213.3ha		
調査経緯	平成22年度基礎調査(調査費2,000千円、県50%・地元50%) 平成23年度調査計画(調査費8,500千円、県50%・地元50%)						
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プラン「新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくり」						
関連プロジェクト等	雄物川中流部河川改修事業「寺館大巻築堤」(H21~H28)						
事業を取り巻く情勢の変化	農山村地域では過疎化や高齢化が進み、地域の集落機能の低下や担い手の不足等により、農業生産力が低下するとともに農村の活力が失われつつある。このため農地の生産力を最大限発揮するほ場整備事業を導入し、集落型農業法人等への面的な集積を図るとともに、複合経営による産地づくりを促進し、併せて耕作放棄地防止を図る必要がある。						
事業効率把握の手法	指 標 名	箇所評価における担い手が経営する面積割合					
	指 標 式	地区内の担い手の経営面積 / ほ場整備地区面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	70 %		データ等の出典	基盤整備関連経営体育成等促進計画書		
	達成値 b	80 %					
達成率 b / a	115 %		把握の時期	平成23年 8月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	農業県である本県農業の将来を支える農業者の育成は県の重点課題であり、県では積極的かつ主体的な関与が必要。本事業の主目的は担い手の育成・確保である。 小区画や道路の狭小、地下水位の高い湿田では効率性の悪い営農を強いられており、用排水路も土水路のため法面の崩壊など維持管理にも苦慮している。 これらの課題を総合的に解決する手段としてほ場整備事業が最も効果的で妥当である。	8 点
緊 急 性	米価の低迷が続く中、ほ場条件が悪く転作が出来ない現況の生産基盤での営農では、農業収入の減少から後継者不足が顕著であり、また耕作放棄地も増加している。 水田農業の新たな展開を切り拓くためには、生産基盤の整備と併せ農地の集積により、効率的な営農と複合経営を可能とするほ場整備は急務である。	16 点
有 効 性	ほ場整備により乾田化が図られたほ場では、戦略作物を主体とした複合経営が可能となり、現状よりも一層の品質や収量の向上に繋がり多角的農業の展開が可能となる。 事業を契機に、集落単位ごとに3農業生産法人を設立し、その法人に地区面積の8割を集積する計画である。地域農業を守る担い手が確保されるとともに、連担化された農地では大型機械の導入により農作業効率が飛躍的に向上される。	30 点
効 率 性	小区画が点在された農地での農作業から大区画での農作業に変わり、農業機械の効率化・省力化が図られるとともに、ほ場条件の改善に伴い生産性が格段に向上するため、投資効率は1.30と大きな効果が期待できる。	15 点
熟 度	区域一体は雄物川洪水時の湛水地帯であり、複合化推進の大きな支障となっていた。現在、河川改修が実施されており、ほ場整備事業の排水路施工との相乗効果により、地域の長年の懸案である洪水常襲地帯から脱却し、戦略作物導入による複合経営の確立が可能となるため、地域のほ場整備に対する期待は極めて高い。	20 点
判 定	ランク () 水稲部門では、省力化を目指した栽培体型等新たな技術を導入するとともに、排水改良により大規模な大豆、枝豆の生産に取り組み、近隣地区との協力のもと、一大産地を形成する計画を進めるなど、地域一体で儲かる農業を実践していく姿勢は評価できる。	89 点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 河川改修とほ場整備事業による排水強化を契機として、地域の悲願である米単作からの脱却が図られ、複合経営の確立が地域活性化の起爆剤となることから、事業実施については今が適時であり実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	選 定	改 善 して 選 定	保 留
農業生産法人が地区の81%を集積し、水稲、大豆、枝豆等の栽培に取り組む計画となっている。 生産性向上により担い手の経営基盤を強化し、複合的な農業経営を実現する観点から必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。			

4. 財政課長意見

意 見 内 容	選 定	改 善 して 選 定	保 留
将来に向け地域農業の担い手を育成し、安定した複合経営を実現するため、効率的なほ場と、汎用性のある暗渠排水施設等を整備する必要性が高い。 また、隣接して実施する河川改修工事の発生残土を不足する水路の埋戻し材に活用するなど、効率性の面からも妥当である。			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	選 定	改 善 して 選 定	保 留
事業の実施は妥当である。			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 ほ場整備事業

事業コード (H23-農-新-06)
箇所名 (藪台地区)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	受益面積 (地域周辺への波及度)	100ha以上 (条件不利地域の場合、50ha以上) 50ha以上100ha未満 (条件不利地域の場合、20ha以上50ha未満) 50ha未満	5 3 1	5		
	労働生産性の現状	未整備地域である 整備済だが水路等の損傷が著しい 整備済で、水路等の損傷が見あたらない	5 3 1	3		
	計		10	8		
	緊急性	事業未実施の影響				
緊急性	営農への支障状況	用水不足や排水不良等が全域で見られ支障をきたしている 用水不足や排水不良等が一部区域 営農への支障は特にない	5 3 0	5		
	応急対策の実施状況	施設の老朽化等により応急対策は日常化している これまでに応急対策を実施したことがある 応急対策を実施したことはない	5 3 0	3		
	受益者の高齢化状況	60歳以上の耕作者が40%以上 60歳以上の耕作者が30%以上40%未満 60歳以上の耕作者が30%未満	5 3 1	5		
	他事業との関連	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い 関連する他事業との調整が事業期間中に必要 関連する他事業との調整を必要としない	5 3 0	3	
	計		20	16		
有効性	上位計画への貢献度					
	ふるさと秋田元氣創造プランでの位置付け	戦略を支える取組として貢献度が高い 戦略を支える取組に間接的に貢献する 戦略を支える取組への貢献度は低い事業である	5 3 1	5		
	市町村計画での位置付け	農業振興の中核を担う事業として位置づけられている 農業振興を担う施策に間接的に位置づけられている 特に位置づけられていない	5 3 0	5		
	期待される具体的効果					
	担い手への農地集積度	農業生産法人等担い手への農地集積率が70%以上 農業生産法人等担い手への農地集積率が50%以上70%未満 農業生産法人等担い手への農地集積率が50%未満	5 3 1	5		
	農業所得	農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並の450万円以上 農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並の450万円未満	5 0	5		
	多角的経営の取組度	マーケティングを意識し、6次産業(生産加工販売)を目指す計画を策定 マーケティングを意識し、生産のみならず販売を含めた営農計画を策定 特に意識していない	5 3 0	5		
	営農計画	新規作物及び新技術の導入がともに図られている 新規作物及び新技術の導入がどちらか一方が図られている 新規作物や新技術の導入が図られず、現状と変わらない	5 3 0	5		
	計		30	30		
	効率性	事業の投資効果				
費用対効果		B / C = 1.2以上 B / C = 1.0以上 ~ 1.2未満 B / C = 1.0未満	5 3 0	5		
事業実施コストの縮減		コスト縮減計画を策定、事業計画に反映 コスト縮減計画を特に検討していない	5 0	5		
事業費単価		10a当たり事業費 国で示す上限値の80%未満 国で示す上限値の80%以上、上限値未満 国で示す上限値以上	5 3 0	5		
計			15	15		
熟度	地元の合意形成の状況					
	同意状況	全員の同意が得られている 未同意者が存在するが、事業実施に支障がない 未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	5 3 0	5		
	事業推進体制	事業推進組織が設立済みで、活発な活動を展開 事業推進組織が設立済みで、定期的開催 事業推進組織が設立されていない	5 3 0	5		
	農地集団化推進団体の有無及び活動状況	現時点で集落営農組織または法人が設立されている 現時点で任意組織(生産組合など)が設立されている 現時点で組織が設立されていない	5 3 0	0		
	事業推進のための各種協議の進捗状況					
	進捗状況(水利権、道路協議 林地開発、指定区域等)	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている 協議中であり、合意が得られる見込みである 協議中であり、合意時期が未定である	5 3 1	5		
	環境と調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	環境検討委員会を設置、環境保全への取組内容が十分 環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中 環境検討委員会が設置されていない	5 3 0	5		
	計		25	20		
	合計			100	89	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		